

あたたたかな北上

登場人物

うたたろう

かな

としあき

へそみ

火星人

カーナビ

はじまり。としあきの思い出の中で、へそみは人形を抱いている。そこはとしあきとへそみの住んでいる粗末な集合住宅の屋根の上。夏の暑さがなくなった頃。へそみは星を数えていた。

へそみ 3 2 4 1 3 2 4 2 3 2 4 3 3 2 4 4 3 2 4 5 3 2 4 6 3 2 4 7 3 2 4 8

としあき 今日はずっとたくさん見えてるんだね

へそみ こんなはまだまだよ 冬になればもっと見えるわねえ 次の遠足の日はいっただけ

としあき 12月だよ

へそみ 冬ね

としあき 冬だね 出来るだけ空気の透明なところへ行こうか

へそみ それって遠いところ 見えないところ

としあき 分からないけど 北の方だよ

へそみ 北ね それって遠いところ 見えないところ

としあき 分からないけど 透明なところだよ

へそみ 透明ね それって遠いところ 見えないところ

としあき 分からないけど 寒いところだよ

へそみ 寒いよね 私この子に温かい格好を用意しなくちゃ

としあき そうだね

へそみ そうよ

としあき そうだね

へそみ そうよ

としあき そうだね

へそみ …

。抱いたまま何も喋らなくなる。としあきは今自分がどこにいるのか分からなくなる。その手にはへそみの人形がある。見つめて、へそみの続きから数を数え始まる。これは何の数字だったか。

としあき 3 2 4 9 3 2 5 0 3 2 5 1 3 2 5 2 …

22世紀。ここは自動車の中である。三列シートの運転席にうたたろうが座っている。助手席にはかなが座っている。2列目の席にとしあきが座っている。としあきは窓の外を眺めている。かなは、真剣な顔でしおりを読んでいる。うたたろうは難しい表情をして腕を組んでいる。自動車は自動操縦で、運転手は時折カーナビゲーションシステムに声で指示を出すだけである。緊急時には自動操縦に切り替えて自らアクセルを踏む事も出来る。カーナビゲーションシステムのコンピュータは運転席前方に組み込まれているが、運転手が話しかけると、運転席の隣のガラスに表示されている女性型の立体映像へである。立体映像は、車内にいる人間から見ると自動車の外を並走しているように見える。しかも直立している映像なので、直立したまま、自動車と並んで見えているというおかしな格好である。しかしうたたろうもかなもとしあきもそんな事は気にしていない。自動車は山の中の大きな道をひたすら直進している。夜中の走行なので、道路に他の自動車は見えない。としあきの眺めている外の景色に星はほとんど見えていない。空は奇妙な青で薄暗く、その下に大きな山の影が連なっているだけである。カーナビゲーションシステムの案内からお芝居が始まる。

カーナビ ピンポン このまま10キロ先で検問が行われている様子です 検問の予測難易度は一番星です おそまつな偽造許可証だと銃で撃たれるでしょう 許可証に自信はありますか

うたたろう 自信はない

カーナビ では銃弾を受けますか もしくは別の道を検索しますか 検問でこの車の近くに寄って来るのは3人の警官です 1人が運転席のあなたに窓を開けるように…

うたたろう 別の道を検索してくれ

カーナビ 最後まで聞いてください 1人が運転席のあなたに窓を開けるように手振りで示し そのままあなたに許可証をフロントガラスに映し出すよう指示しましょう 2人目は助手席に座っている人を見張る係です さらに本部へ連絡する係も兼ねています 3人目は検問中ずっとレーザ銃を構えています 1人目の後方で 1

人目が後ろ手で合図すればたといあなたが発言中であっても構わず銃を撃つでしょう。銃の先っぽからあなたの  
おでこまで1メートル 2メートル 1メートルくらいでしょう。初弾をかわして自動操縦から手動操縦に切り  
替えアクセルを踏むのには相当な技が必要です。技は取得していますか

うたたろう 取得していない

カーナビ それでは検問は避けるのが得策だと思います

うたたろう 俺もそう思う

カーナビ それでは別の道を検索しますか

うたたろう 別の道を検索してくれ

カーナビ 分かりました 3秒待ってから10分待ってください

うたたろう それじゃ間に合わんだろう

カーナビ 検問には間に合いません 速度を落としますか

うたたろう 落としてくれ

カーナビ 分かりました 間に合う感じで速度を落とします

うたたろう 頼んだ

カーナビ 了解しました

うたたろう あのさ

カーナビ え あ ちょっと あの 検索してて はい あ ちょっと

うたたろう もういい

カーナビ ありがとう

うたたろう :

かな 飴ちゃん どうぞ

うたたろう もうもらっているよ

かな 甘いものは落ち着きますから どうぞ

うたたろう もうもらっているよ

かな 私たくさん持ってますから どうぞ

うたたろう もうもらっているよ

かな うたたろうさん怒っているから どうぞ

うたたろう もうもらっているよ

かな 甘いものは落ち着き…

うたたろう かな君

かな はい

うたたろう その旅のしおり 表紙になんて書いてある

かな はい あたかな北上」って書いてあります

うたたろう よく読んだか

かな はい

うたたろう もっとよく読め

かな はい あたたかな北上」って書いてあります

うたたろう 赤い大きな字のところだぞ

かな はい 赤い大きな字で あたたかな北上」って書いてあります この車も北へ向かっているんでしょ

うたたろう よく読んだか

かな はい

うたたろう もっともっとよく読め

かな 私よく読んでます

うたたろう 赤い大きな字のところだぞ

かな 赤い大きな字のところですよ

うたたろう 左目を閉じて右目をかっ開け

かな はい

うたたろう しおりをその右目に1センチまで近づけて読め

かな はい

かなは両手で持っているしおりをピンと張り、顔にもものすごく近づける。

かな あたた たか あたた あ あたたたかな これ うたたろうさん これ あたたたかな北上」って書いて  
ありますこれ

うたたろう よく読んでいなかったじゃないか

かな ごめんなさい

うたたろう そのしおりを作った奴 どうなったと思う

かな 罰金だと思います

うたたろう いくらだ

かな 5万円だと思います

うたたろう 電気椅子の刑だ

かな で え それから罰金ですか

うたたろう 電気椅子に座らされて 電気だ 死ぬんだよ

かな はい

うたたろう 俺たちのやっている事はそれくらい失敗の許されない事なんだよ

かな はい

うたたろう じゃあなんで飴ちゃんだとか言うんだよ

かな ごめんなさい

うたたろう 分かってくればいい

かな …

うたたろう 発射基地へ行くまでの辛抱なんだ

かな …

うたたろう 順調に行けば明日には到着する でもそれまでにどれだけ検問から逃れられるか 警察に捕まれば俺たち家畜身分の人間なんてそのまま家畜同然に処理されるんだ その前にどれだけ俺たちの手で人を処理しなければいけないか

かな うたたろうさん 家畜身分だなんてやめましょう

うたたろう じゃあなんだ

かな 私たちに身分なんてありません 人間なんです これから私たちの向かう場所はそういう所なんです

うたたろう 本当にそんな所があるかどうか

かな あります 想像しましょう 私たちはこれから宇宙船の発射基地へ行きます 順番を待って 宇宙船に乗って月へ向かいます 宇宙船のお尻の窓からどんどん遠ざかってゆく地球を眺めて そこは特等席なのでずっと座る事は出来ません 順番が回ってくるのを待ちます 私とうたたろうさんと 順番はきちんと回ってきます 身分なんてないんですから 私たち権利があります 宇宙船のお尻の窓から地球を眺める権利です 月の地面に立って満天の星空を眺める権利です そして月を離れずととと 火星へ行く権利です

うたたろう だめだ

かな なんです

うたたろう 今言ったばかりじゃないか 失敗の許されない事なんだ そんなふわふわするつるつるした考えじゃだめなんだ

かな 希望を描くのついでいけないんでしょうか

うたたろう この旅のしおりを作った奴は殺されているんだぞ

かな それは「た」が一個多かったからですよ

うたたろう 「た」が一個多かったのは君みたいにふわふわするつるつるしていたからだろう 見ろこの表紙 どんぐ



りを持った リスがいる かわいいリスが紅葉のおざぶでくつろいでいるんだぞ 今から火星へ飛び立とうってのに紅葉のおざぶでどんぐりにリス

かな 最後の秋を少しでも心に忍ばせておくんです

うたたろう 君はまだこんな星に未練を感じているのか

かな :

うたたろう 季節の娯楽だなんて特権階級のものだろう 俺達は物心ついた時から薄ぼんやりとした工場で起きてから寝るまでよく分からん素材のコケシの置物を作らされ続けた 表情のないコケシを何百匹も何千匹も何万匹も 窓なんてなかった この星に季節があるだなんて大人になって初めて知らされた かな君

かな はい

うたたろう 俺達が子供の時分に季節なんてはあったのかい

かな はい

うたたろう あったのかい

かな はい

うたたろう あったのかい

かな はい

うたたろう あったのかい

かな はい

うたたろう あったのかい

かな はい

うたたろう …

かな ごめんなさい

うたたろう 君は何も謝らなくていいんだよ ただ 俺達は選ばれたんだ この国を この星を抜け出しさえすれば 俺も君も火星でもどこでも敷物敷いてさ 赤い土が吹かれてくのを見よう そういう 季節だよ

かな はい

カーナビ あー無理無理

うたたろう なに

衝撃が車内を包む。自動車の前方に何かが当たったようだ。

うたたろう なになに

かな 今 何か大きなものをひきました

うたたろう え ひいたの 人

かな 分かりません

うたたろう おい ドアを開けてくれ (カーナビに)

カーナビ 分かりました ウイイ…

かな 確かめるんですか

うたたろう え だってそりゃ そうだろ

うたたろうは車外へ出る。自動車前方から回り込んで、暗がりの何かに近づく。続いてかなも出て行く。1人車内に残されたとしあきは何か音階になっていないものを口ずさむ。車外。うたたろうとかなの見ているものは、倒れている火星人であった。

うたたろう これ 火星人だ この触角

かな ほんとう 良かったですね

うたたろう え

かな 人じゃなくって

としあきの出す音が大きくなる。それは数字だった。4 1 8 9 7 2、4 1 8 9 7 3、4 1 8 9 7 4…

場面は変わり、としあきの住んでいた集合住宅の一室。時間も後戻りしたようだ。としあきはまだ出発していない。としあきは出発する時刻になるのを待っている。その部屋にはへそみもいる。へそみはとしあきのリュックに人形を入れて、出して、入れて、出して、を繰り返している。

へそみ いいなあとしあき君の火星

としあき 俺は選ばれたんだよ へそみは選ばれなかったからだよ

へそみ いいなあとしあき君の火星 私もとしあき君みたく上手に数えられたらよかったのに

としあき 俺は数数えるの上手だよ

へそみ 私数数えられない どんなにがんばったって384434までしか数えられないの どうしてもその間  
にお昼が来て夕暮れがきて夜になるのよ

としあき 384434まで数えたら次に起きた時はその続きから数えたらいいんだよ

へそみ どうして続きから数えられるの

としあき 数字は便利だからだよ 384434の次は必ず384435になるだろう

へそみ それまでの384434はどこからくるの 1から数えなければとお父さんもお母さんもいなくなっ  
ちゃうのよ

としあき へそみは屁理屈ばかり言うから選ばれなかったんだよ

へそみ 私は数えられないだけよ

としあき その人形はどうするの

へそみ 入れる 入れない

としあき 早くしないと出発するよ

へそみ もう夜

としあき そうだよ

へそみ 何秒火星に行くの

としあき 2533880000秒の間行ってるよ

へそみ …

としあき このしおり面白んだよ

へそみ リスのしおり

としあき 俺の乗る車って偉い人の用意したやつなんだよ

へそみ 特権階級の人

としあき そっちの偉い人じゃなくって俺らのところの偉い人

へそみ いい人

としあき 車の手配のところだね レンタカー屋に行けって書いてあってね あ 俺は途中から乗るからレンタカー屋には行かないんだけどね

へそみ レンタカーで車の手配

としあき そう 車を受け取る時にその店の店長を殺してこいってしおりに書いてるんだよ 助手席のポケットにレーザー銃を隠しておくんだって

へそみ レーザー銃で店を殺して車を受け取る

としあき という事はね 俺が車に乗り込む時にはその人達はもう人を殺してきたんだよ 俺さ 人殺しの顔見るだなんて初めて

へそみ としあき君

としあき うん

へそみ 253388000秒の間に私も火星行きたい

としあき へそみは選ばれなかったんだよ

へそみ いいなあ としあき君の火星

としあき 人形入れるの

へそみ 入れる 入れない

としあき 早くしないと出発するよ

へそみ としあき君火星に行く 行かない

としあき …

へそみ としあき君火星に行く 行かない

としあき 俺は火星に行くよ

へそみ 私は行く 行かない

としあき へそみは火星に行かないんだよ

へそみ 私

としあき …

へそみは困ったとき、良い考えが浮かばなかったとき特別な仕草をする。それは傍から見ると手のひらでひらひらと踊っているような仕草。としあきは日頃それを可愛らしく見ていたが、その日はそれができなかった。小さな窓から夕暮れの終わりの光。

という場面をとしあきは車内で繰り返し思い返している。うたたろうとかなはまだ外にいる。と、カーナビゲーションシステムが喋りだした。それを見るととしあき。

カーナビ ピンポン 検問を避ける為の別の道路を検索しました 結果をお伝えしてもよいですか  
としあき …

カーナビ 検索した結果をお伝えしてもよいですか  
としあき 君

カーナビ 検索した結果をお伝えしてもよいですか  
としあき 君

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき 君

カーナビ 検索した結果をお伝えしてもよいですか  
としあき いいえ

カーナビ …

としあき …

カーナビ 検索した結果をお伝えしてもよいですか  
としあき いいえ

カーナビ …

としあき …

カーナビ 検索した結果をお伝えしてもよいですか

としあき いいえ

カーナビ 検索した結果をお伝えしてもよいですか

としあき 聞きたい事があるんだけど

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき いいえ

カーナビ :

としあき なんで俺は選ばれたのかな

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき なんで選ぶ事が必要だったのかな

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき 火星へ行く宇宙船の数が揃えられなかったからなのかな

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき 権利がどうか言ってくれどそれだって選ばれたから与えられるものだろう

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき 特権階級に選ばれなかったから俺たちのような身分が生まれてこき使われてそれに反発するから火星

へ行くんだろう

カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき それなら俺たち全員で行かなきゃ意味がないじゃないか 君も機械なんだから分かるだろうそれくら

い



カーナビ はいかいいえで答えてください

としあき いいえ

カーナビ …

としあき ずっと いいえ

車外ではまだうたたろうとかなが火星人を見つめていた。火星人は倒れた姿勢のまま動かない。果たして息はあるのだろうか。地球で息をする生理が火星人にはあるのだろうか。と、うたたろうが整理の出来ていない思案を繰り返しているうちに火星人の右手の親指がぴくりと動いた。

うたたろう 病院を探さなきゃ

かな 火星人ですよ

うたたろう 火星人だからなんだ

かな 人じゃないんです

うたたろう 人じゃないからなんだ 俺は血も涙もない特権階級の奴らとは違うんだ たとい犬猫にだって火星人にあつて俺は分かるんだ 痛みを忘れてはいけない

かな 私達明日には宇宙船に乗らなきゃいけない

うたたろう そうとも絶対に乗らなきゃいけないでも痛みを忘れてはいけない

かな でも私達明日には宇宙船に乗らなきゃいけない

うたたろう　でも痛みを忘れてはいけない運転席に座っていたのは誰だ

かな　うたたろうさんです

うたたろう　運転していたのは誰だ

かな　うたたろうさんの自動操縦です

うたたろう　俺の自動操縦だ

かな　うたたろうさん　自動操縦です

うたたろう　そうだ　俺はこの手で　ハンドルを握っていないこの手で何の操縦もせず　この手で　は何もせず

自動にまかせて俺は何もせず　俺は何もせず　え

かな　そうです

うたたろう　かな君　俺はこの手で何もせず何もしていない

かな　そうですね　うたたろうさんのせいじゃない

うたたろう　そうだ俺のせいじゃないいけないいけないこんな考え悪魔の考えだ　俺は血も涙もない特権階級の奴

らとは違うんだ　俺には分かるんだ　分かるんだ　かな君俺は分かっているんだ

かな　好きです　うたたろうさん

うたたろう　そうさ　え　何が

かな　私が　うたたろうさんを愛してる　私が

うたたろう　君が　俺を　え　何が

かな　私が　あなたを　工場でコケシを組み立てている時私の隣にあなたが来て言ってくれた　こけしは皆なで

肩なのだね」

うたたろう　そうさ　こけしは皆なで肩なので　こけしは皆ハト胸なのだ　今ここで　君は俺に好きだって言ったかい

かな　こけしは皆なで肩なのだね　こけしは皆ハト胸なのだね　でも俺と君はどうなのだろう

うたたろう　俺と君はどうなのだろう　俺は男で君は女で　俺の盛り上がった肩と君のなで肩　並べて立っている道理ってなんなのだろうね　ねえ君　もう一度聞かせてくれるかい　君が俺の事をなんだって

かな　そうです　私達皆生まれてからいなくなるまで工場の中にいてこけしの波にうずもれながら陽の光の温かさも思い出せないまま心が沈んでそのままいなくなるだけの存在だった

うたたろう　でも選ばれた　火星へ行くんだ　俺とかな君と　そしてこの火星じ…

かな　火星人はここで殺してあげましょう

うたたろう　…

かな　それが私たちの精一杯

うたたろう　そうだ　俺達はもう人を殺しているんだ

かな　レーザー銃　あります

うたたろう　ここに

うたたろうはレーザー銃を構える。火星人の後頭部を狙う。うたたろうが引き金を引こうとしたその時、火星人がふいにうたたろうの足を掴んだ。

うたたろう ぎゃああ

うたたろうは驚いて姿勢を硬直させる。そのままレーザー銃の引き金を引いてしまった。レーザーはまばゆく、一直線にかなの下腹部に命中した。

かな げ

かなはその場に崩れ落ちる。うたたろうは次第に状況を理解する。痙攣した身体から金切声を上げようとして…場面は再びとしあきの暮らしていた集合住宅に移る。としあきは旅のしおりを持って、喜んでいて、それを少し離れて見ているへそみ。

へそみ 嬉しいのとしあき君

としあき そうだよ 届いたんだよ旅のしおりが

へそみ としあき君火星へ行くの

としあき 早く旅に必要なものを揃えないと へそみもゆっくりしてちゃいけないよ

へそみ 私にはしおりはないわ

としあき へそみにもその内届くよ こんな俺にだって届いたんだよ

へそみ としあき君は馬鹿の頂点だものね

としあき 俺は馬鹿の頂点だよ 大きな鞆をくすねてこないとね 俺とへそみの二人分の荷物だよ

へそみ 私も持って行っているの

としあき それはそうだよ 火星は酸素も薄くて寒いからね 着の身着のまま生活できるほどよく出ていない星なんだよ

へそみ よく出ていない星に喜んで走っていくとしあき君

としあき でもね よく出てないかわりに火星は工場がないんだ 全部一から俺達から作るんだよ

へそみ 私が工場を作れるの

としあき そうだよ 何もないところだからね

へそみ 何もないところへ裸で走っていくとしあき君

としあき 服は着るんだよ

へそみ そうなの

としあき そうだよ むしろ着るんだよ

へそみ むしろ着るのね

としあき だって酸素も薄くて寒いんだから へそみは馬鹿だね

へそみ 私は馬鹿よ

としあき 俺も馬鹿の頂点さ

へそみ 火星までどれくらい離れているの

としあき それしおりに書いてあったよ 俺達が向かう時には7000万キロメートルだ

へそみ それは何秒で行けるところなの

としあき 1036800秒で行ける距離だよ

へそみ ここからじゃ見えないところ

としあき 見えないところだよ

へそみ 見えないところなのになんで行けるの 偉い人も馬鹿ね

としあき 皆が馬鹿だよ ほらへそみも早く準備しないと

へそみ 私 私はこれだけでいいわ

としあき 人形だけ

へそみ そうよ 人形だけの1つだけでいいのよ 私

としあき まあ かるうじて着の身着のままじゃないけれどさ

へそみ なに

としあき もう少し考えてみなよ だってもうこの小屋にも帰ってこれなくなるんだよ

へそみ うん 考える

としあきは、我に返る。今の会話は思い出の中であった。今としあきは車の中にいる。思い出の中で自分の言った事を反芻する。

としあき 帰ってこれなくなるんだよ

目の前に。いつの間にか火星人がいる。としあきは、自分の手で容器を持って、火星人の指先から流れる血をそれに受け止めていた。うたたろうは運転席に座っている。助手席にはかなが座らされている。火星人はじっととしあきを眺めている。じっととしあきを眺めている火星人を、としあきは眺めている。そんなやりとりに気付かずに、うたたろうはカーナビゲーションに腹を立てている。

うたたろう　なんで新しい道を教えてくれないんだ

カーナビ　複雑な事情があるからです

うたたろう　その複雑な事情を教えてください

カーナビ　お答えできません

うたたろう　なんでだ

カーナビ　複雑な事情があるからです

うたたろう　検問にひっかからない道が分からなかったからだな

カーナビ　いえ見つかりました

うたたろう　だったらなんで教えてくれないんだ

カーナビ　複雑な事情があるからです

うたたろう　だからなんでその複雑な事情を教えてください

カーナビ　複雑な事情があるからです

うたたろう 俺が殺したと思っているのか

カーナビ うたたろうさんはレンタカー屋の店長を殺しました

うたたろう それは俺が殺した組織の指示の通りだでもこれは違う

カーナビ これとはなんです

うたたろう この かな君は俺が殺したんじゃない

カーナビ 分かりました

うたたろう 組織に何を伝えたんだ

カーナビ 何を伝えるんでしょうか

うたたろう かな君が死んだ事をだ

カーナビ 伝えた方がよろしいでしょうか

うたたろう そんなわけ…

としあき うたたろうさん

うたたろう わ 俺じゃないからね俺じゃないからね

としあき はい うたたろうさんじゃありません

うたたろう …

としあき うたたろうさんじゃありません

うたたろう うん そうだ ごめん

としあき いえ



うたたろう ごめん そうだ ごめん 俺は自分の事ばかり考えていたね今 本当にごめん かな君

としあき …

うたたろう 俺が焦っているのは検問が迫っているからというものもあるけれどそうじゃなくって宇宙船に乗り遅れるというのもあるけれどそうじゃなくってカーナビゲーシオンが馬鹿なのもそうじゃなくって…

カーナビ ば

うたたろう 俺がレーザー銃を撃ってしまったってそれがかな君に当たってしまった事もそうじゃないんだ その君は 君 うん あの 君

としあき としあきです

うたたろう としあき君 俺の話を聞いてくれるかい

としあき はい

うたたろう 長くなってもいいかい

としあき 構いません

うたたろう 長いよ

としあき どうぞ

うたたろう 俺は今この時に悲しいのか焦っているのかあきらめているのかホッとしているのかそれが嬉しい事なのか分からないんだよ

としあき …

うたたろう あ終わった 全然長くなかったね

としあき はい

カーナビ それでは出発進行：

うたたろう 黙っていてくれ

カーナビ だ で 了解しました

うたたろう うるさいんだ

カーナビ 申し訳ありません

うたたろう 黙っていてくれ

カーナビ 了解しました

うたたろう としあき君 なんだい

としあき え

うたたろう 何か言いたかったんだろう

としあき はい あの 火星人がずっと俺の事見てるんです

火星人 …

うたたろう 本当だね

としあき それとこの火星人指先から血が出てるんですけどね

うたたろう 怪我をしていたかい

としあき そんなに大きな傷じゃないと思うんですけど止まらないんです

うたたろう え

としあき 血が止まらないんです もうボトルもいっぱいになっちゃって  
うたたろう どれ

としあきは、火星人の指を突っ込んだペットボトルをうたたろうに見せる。ペットボトルには緑色の液体が入っていた。

うたたろう いっぱいだね

としあき どうしましょう

うたたろう 緑色なんだね火星人で

としあき 宇宙人ですからね

うたたろうは運転席に戻る。ペットボトルをかなに差し出すような仕草をして、

うたたろう きれいだね

としあき はい

うたたろう やっぱり 火星人も生きてるんだよやっぱり

としあき はい

かなは反応しない。

うたたろう 捨ててくるよこれ

としあき 宇宙のものを勝手に捨てるの禁止されてますよ

うたたろう 特権階級の作った法律だ

としあき はい

うたたろう 俺たちはこれからそんな法律の届かない所へ行くんだよ ドアを開けてくれ

カーナビ 分かりました あ

うたたろう いいよ喋って

カーナビ 了解しました

うたたろう ドアを開けてくれ

カーナビ 分かりました ウイイ…

うたたろうは車外へ出て行く。残されたとしあきと火星人。

としあき 勝手だろう地球人で

火星人 …

としあき お前の血 メロンソーダみたいだね 俺のあこがれだよ

火星人  
：

としあきは、火星人の指先の傷口を口で吸う。

としあき やっぱりメロンソーダだ 俺飲んだ事ないんだけどね 俺のあこがれだよ  
火星人  
：

火星人は星を指差す。

としあき なんだい

火星人  
：

としあき うん 星空だね

火星人  
：

としあき そうだね お前の故郷のあるところだよ 今から俺の行くところ

火星人  
：

としあき お前は 多分行かないんじゃないかな そういうところだよ

火星人  
：

場面は変わり集合住宅の屋根の上。へそみは星空を眺めている。

へそみ 本当に遠いところよ 見えないところ

としあき そんなところに何があるのさ

へそみ 分からないわよ見えないんだもの でもお父さんは出発したの 100万個のこけしを作ったごほうびよ

としあき へそみもそこへ行きたいの

へそみ 私は行けないわ 384434までしか数えられないんだもの 今も星を数えるので精いっぱい

としあき 何個まで数えられた

へそみ 3248個

としあき 今日はたくさん見えてるんだね

へそみ こんなのまだまだよ 冬になればもっと見えるわ ねえ 次の遠足の日はいっだけ

としあき 12月だよ

へそみ 冬ね

としあき 冬だね 出来るだけ寒いところへ行くかうか 出来るだけ空気の澄んでいるところ

へそみ それって遠いところ 見えないところ

としあき 分からないけど 北の方だよ

へそみ 北ね この子に温かい格好を用意しなくちゃね

としあき 何かくすねられるかな

へそみ 大丈夫よ 布の配給がもうすぐあるから 私うまくしつらえとくわ これからどんどん増えていく星空を数えながらお裁縫をするの

としあき 針が刺さらないように注意するんだよ

へそみ それは刺さるわ でも大丈夫 すぐに指を引っ込めるのよ

としあき そうだね

としあきは星を眺めている。ここは山の中。うたたろうはしゃがんで火星人の血を地面に注ごうとしている。でも血は出てこない。中で固まっているのだろうか。としあきは傍らに立ってそれを見守っている。

としあき 遠足の日って言ってたんです 少しずつ貯金を貯めてそれを監視員のふところに入れさせて一晩だけ街を抜け出すんです 夜行の秘密バスに揺られて その日だけは特別で昼間あんなに働いたのに眠くならないでほんの1時間ほどの距離のところだけだと俺達にとっては随分遠いところだった へそみはバスの中からはしゃぎっぱなしで 元気な子でした

うたたろう …

としあき 出てきませんか

うたたろう うん 中で固まっているのかな

としあき 捨てていきますか

うたたろう え

としあき そのボトル

うたたろう うん そうだね

としあき 火星人はどうします

うたたろう 血が止まったなら車を降りてもらおう

としあき 車降りてからどうなるんですかね

うたたろう 射殺されるんじゃないかな 野良の火星人は認められていないから

としあき あの女の人はどうします

うたたろう どうするってなに

としあき え 死んでいるから

うたたろう 彼女は選ばれているんだ 連れていくよ

としあき でも死んでるんじゃないですか

うたたろう あの 君 そのね

としあき としあきです

うたたろう としあき君

としあき はい

うたたろう 俺はさっぱりした考えが出来ないからさ 迷ってしまうんだよこういう時に 君のように大事な人を置いていく事もなかったし

としあき でも車の手配をした時に人を殺しているんでしょう



うたたろう 多分殺してないんだ

としあき え

うたたろう レンタカー屋の店長 ものすごく痛そうに身体がはしゃいでいたからさ 俺とどめを刺す前にレーザーを緩めちゃったのさ

としあき それ組織にバレたらやばいんじゃないですか

うたたろう 大丈夫だよ多分

としあき うたたろうさん 俺達まだ選ばれてないですよ

うたたろう え

としあき 俺達選ばれている最中なんですよ今 きっと 火星へ移住するのって途方に暮れるほど大変な事だから きっと それだけの力を持っているかどうか試されているんですよまだ きっと

うたたろう 俺はレンタカー屋の店長を殺さなきゃいけないかったのかい

としあき うたたろうさんは人殺しをしなきゃいけないかったんです 俺はへそみと別れなきゃいけないかったです 決別した時のエネルギーを注ぎ込んでやっとな火星へ行けるんだって思っているんですよ組織は

うたたろう それじゃ俺はどうなるんだろう

としあき 捨てましょう全部

うたたろう え 全部 かな君も

としあき そうです

うたたろう でもそれは

としあき 車も火星人も全部 そうか 俺も

うたたろう 君を

としあき そうか そうです俺も捨てましょうここで 俺もあの女の人も火星人も車も全部捨てればうたたろうさん選ばれますよきつと

うたたろう 何言ってるんだとしあき君

としあき 俺も何が何だか分かんなんですでも今なんですきつと 頼みます撃ってくださいレーザー銃もう俺動きませんから頼みます頼みます

うたたろう なに なに 馬鹿 馬鹿 馬鹿野郎

としあき 俺はそうなんです馬鹿の頂点頼みます

うたたろう 馬鹿野郎馬鹿野郎 俺を一人にするな頼むから な 頼む俺一人とか慣れてないんだ嫌だよこんな山の中で頼むよ

としあき ああ 過ぎた

うたたろう …

としあき もう 過ぎた うたたろうさんが遅すぎたから もうわけ分かんないのなくなっちゃいました ほらもう だってレーザーとか痛いでしょうだって

うたたろう 痛いと思うよこれは

としあき へそみい へそみい もうすぐ冬になるねええ

うたたろう うおんうおん

その時。山の中で銃声がこだまする。それは少し離れたところからのようである。真っ暗闇の中、木々に跳ね返って聞こえてきた音は、どこからだろう。とても身近に感じられる。そこへカーナビゲーションがやってくる。車から出てきても問題ないようだ。

カーナビ 信号を受け取りました

うたたろう え

カーナビ 先行していたあなたたちの仲間が検問に引っかかったようです。その時に発せられたものと思われる

うたたろう 今の音は

カーナビ 銃声です。検問所からでしょう

うたたろう 仲間はもうなくなった

カーナビ 銃声はレーザー銃のものではありませんでした。前の時代で使用されていた鉛玉を発射する鉄砲というものです。鉄砲を使用したのにはいくつか理由が考えられます。可能性が高いのは、あなたたちの仲間にあなたちの仲間を殺させたというものです。鉄砲はそれを撃った人間の手のひらの感覚を麻痺させる程すさまじい衝撃が発生します。自分の仲間を自分の手で撃ったという事実をその者の心に響かせて、それから刑を執行するものと思われま

うたたろう 信号は何と言っている

カーナビ 助けを求めています

うたたろう 俺達が助けに行けばどうなる

カーナビ 同じ事が行われるでしょう

うたたろう それは 助けないという選択はしてもいいのか

カーナビ 構いません

うたたろう 君は俺達を監視しているんだろう

カーナビ 私の役割はうたたろうとかなととしあきを無事に宇宙船の発射基地へ送り届ける事です

うたたろう その為には仲間を見捨てても構わないという事か

カーナビ 見捨てても構わないという事です

うたたろう そうか よし よし

うたたろうはうづくまる。地面に向かって叫ぶ。

うたたろう 俺は 俺はもうこけしを作りたくないんだ

カーナビ そうです 自由を手に取りましょう

うたたろう 自由

カーナビ 自由ですうたたろう

うたたろう 呼び捨てにするな

カーナビ 私に考えがあります

うたたろう 考え

カーナビ かなは蘇るでしょう

うたたろう よみがええええ

カーナビ 私の考えが実行されればかなは蘇るでしょう

うたたろう 何を言っている

カーナビ 私の役割はうたたろうとかなとしあきを無事に宇宙船の発射基地へ送り届ける事です

うたたろう 呼び捨てにするな

カーナビ 火星人の頭についている触角をちぎるのです そしてそれをかなの頭に移植しておあげなさい

うたたろう 移植してどうなる 俺は仲間を見殺しにするんだ

カーナビ かなは蘇るのです

うたたろう 呼び捨てにするな

カーナビ うたたろうさん

うたたろう あ き 呼び捨て

カーナビ 火星人の触角は火星人の驚異的な治癒力や記憶力生殖能力を司っている所なのです 特権階級はそれを自らに移植して肌年齢を維持する事につとめているのです

うたたろう かな君のふるふるたまご肌

カーナビ そうです レッツ火星

うたたろう よおし

うたたろうは車内に戻る。そして車外に出てくる。同じどこに突っ立っていたとしあきに向かって、

うたたろう 君も手伝うんだよ

としあき はい

うたたろうは車内に戻る。としあきも車内に戻る。火星人は星を眺めていた。うたたろうは触角を奪いにかかる。火星人はおもいきり抵抗する。車の後部座席でうたたろうと火星人の闘いが始まる。車内に戻ったとしあきは運転席からそれを眺めている。運転席にはうたたろうが置いたレーザー銃がある。

うたたろう としあき君手伝え

としあき こんな事が検問の突破に役立つでしょうか

うたたろう 手伝うんだよ

としあきは火星人の手足を抑えつけようとするが、火星人が暴れる為触れる事がかなわない。としあきはレーザー銃を手に取り、火星人を撃つ。火星人は身体を震わせてから座席に沈む。息絶える。それを見届けたうたたろうは火星人の触角をちぎる。ちぎったそれをかなの頭にくっつける。かなはもったいぶったように息を吹き返し、両目を開ける。息を飲むうたたろう。かなはしなやかに車外へ飛び出る。周りの景色を眺める。月の光を浴びるように両手をかかげ、星空を眺める。うたたろうも車外へ出て、それを見ている。

かな 山の中って静かですね

うたたろう かな君 本当にごめん

かな 謝らないで ここにちょうど良い二人ぶんのベンチを作ってほしいんです

うたたろうは微笑んで、車内の座席という設定だった椅子をちぎって、かなの願い通りに用意する。かなはそれに座る。

かな 座って

うたたろうはかなの隣に座る。かなは、一言一句を唇で味わうように言葉を発し出す。

かな ああ なんとこの事なの 生きる喜び 生きる喜び 山の中の夜ってきれいですね

うたたろう そうだね

かな 自動車のヘッドライトに照らされた紅葉

うたたろう 秋の更けてゆく時期だから

かな 赤い葉っぱが特別きれいですね

うたたろう いつもが枯れているか緑色だからだよ

かな それは季節ですよ

うたたろう 季節かな

かな 私この星に未練があります 景色が変わり続けているのは大事だと思っ  
うん

うたたろう そうかもしれないね

かな 初めてこの星に来た時に思った事がそれでした めまぐるしく変わる景色に渡り鳥 葉のそよぐ音に雨の降る音

うたたろう 初めてこの星に来た

かな 物心ついた頃からずっと あくる日もあくる日も窓の無い工場でコケシを作り続けて 仕事が終われば真夜中で 家路に着くまでの間に眺める星空しかきれいに見えるものがなかった

うたたろう これからだよかな君

かな 私達これから火星へ行くんですね 遠い星へ

うたたろう 遠いね

かな 故郷へ帰るだなんて何年ぶりでしょう 私お母さんやお父さんの顔なんて覚えていませんから 故郷のお母さんやお父さんや887人の兄弟達みんながとっても懐かしい

うたたろう かな君

かな はい

うたたろう 兄弟かい

かな 革命の時を待っているんです 忘れもしませんオリンポス赤の歴3378年31月8日 地球からやって来た使節団が私達の星を離れるのと時を同じくして大規模な人攫い事件が起きたんです 私はその日千葉県浦安市にある工場でコケシを作り続けてオリンポスの山々を監視している父を助けていました

うたたろう かな君



かな はい

うたたろう かな君がいたのは浦安の工場だね

かな はい

うたたろう オリンポス山にもいたのかい

かな はい

うたたろう オリンポス山ってどこなんだい

かな 私達 一家はオリンポス山の監視の為に村を離れていて無事でしたが戻ってからは悲惨でした 強烈な爆発を思わせる地面の焦げた黒色 跡形もなくなった家々 無残にちぎれ飛んだ看板と子供達の衣服 見せしめに殺された男達の変わり果てた姿 そして私は千葉県浦安市にある工場でコケシを作り続けていた

うたたろう オリンポス山ってどこなんだい

かな 地球人は笑顔の傍らで辺境にある私達の村を襲い仲間達をたくさんたくさん攫っていった

うたたろう かな君

かな はい

うたたろう かな君じゃないね君は

かな うたたろうさん

うたたろう かな君

かな 私はうたたろうさんの事が好き

うたたろう かな君

かな 地球人は撃滅してみせる

うたたろう かな君

かな 私は火星へ帰る とても嬉しいんです 物心ついた時にはお母さんもお父さんも顔も覚えていませんでした でも今でもはっきりと顔を覚えています 私は家族がなんなのかずっと分かりませんでした でも家族がなんなのかという事だけははっきりと分かる 愛情を持っています どんなに離れていてもどんなに時間が経っていても家族の絆はなくなるならない だってこんなにくっきりすっきりお母さんお父さん887人の兄弟達の話す声を覚えているでも私はお母さんもお父さんも兄弟がいたのかさえも覚えていない 憎しみがあります 私達家族を引き裂いた事に復讐をしたくてたまりません 地球人が大挙して火星にやってくるという情報を何としても私は私の星へ伝えなければならぬ復讐をする為に うたたろうさん私達は何としても火星へ行きましょう絶対に火星へ行ってはいけません殺されてそれでおしまい ああ でも地球にこのまま残っていたって生涯窓の無い工場でコケシを作り続けて私はそれだけなんでしょうか 宇宙船へ乗って月のホテルに泊まって火星へ向かうその道中だけでもうたたろうさん あなたと一緒にいれる事に全ての幸せをかけるべきだと思う私もここにいる 私はどうしましょう

うたたろう かな君は かな君と俺は

かな この きれいな紅葉の中で一緒にいなくなりますか

うたたろう 紅葉は きれいだね

かな レーザー銃はそれほど痛くなかったですから

うたたろう そうかい 本当だね

かな はい

うたたろう そうだね

うたたろうはズボンのポケットを探るが、レーザー銃はなかった。かわりに飴が入っていた。

うたたろう ほら 飴ちゃん

かな あら

うたたろう レーザー銃は車に置いてきた 最後の秋になるんだし 飴ちゃんなめてもう少しだけここにしよう  
か

かな はい

うたたろうとかなは座りなおし、飴をなめる。その様子を観察していたのはカーナビゲーション。カーナビゲーションは車内に戻り、組織と連絡をとろうとする。としあきはぼんやりと数を数えていた。

カーナビ 合言葉 一富士二鷹三なすび四もなすび はい カーナビゲーション8番フジ子です はい 例の火星人の案件です 火星人は無事処理されましたが新たな懸念事項が発生しました 火星人の触角を移植した検体  
3434番の…

としあきは数を数えながらレーザー銃をカーナビゲーションに向かって構える。

カーナビ な え あ

としあきはレーザー銃を撃つ。カーナビゲーションは破壊される。としあきは数を数え続けている。車内にはとしあきと火星人の亡骸、カーナビゲーションの破壊された跡、それといつの間にかへそみが座席に座っている。

へそみ としあき君 今どこにいる

としあき まだ車の中だよ

へそみ 宇宙船には乗っていないのね

としあき 宇宙船に乗るのは明日の予定だよ

へそみ まだ何万キロも離れているわけでないのね

としあき まだ近くにいますよ

へそみ これからね 何秒も何秒も としあき君は離れていくのね

としあき 今は止まっているけれどね

へそみ 止まっているのね お顔が見えないからずっと離れ続けているように感じるわ

としあき 俺もへそみがずっと離れ続けているように感じるよ

へそみ 私はずっと止まったままよ

としあき そうかい あの部屋にいてくれるかい

へそみ 私はずっとあの部屋よ

としあき そうだね

へそみ 何秒も何秒も 私はずっとあの部屋よ

としあき そうだね

へそみ そうよ

としあき そうだね

へそみ そうよ

おわり

上演に関してはコトリ会議 [kotorikaigi@gamil.com](mailto:kotorikaigi@gamil.com) までお問い合わせください。